

地域の健康づくり支援のため、出張講座を行いました！

当院では、筑紫野市のコミュニティセンターからのご依頼を受け、今年度これまでに2回の出張講座を行うことができました。コロナ禍において、医療者と地域の皆様との交流が難しい状況の中、大変貴重な機会をいただきました。今後も感染対策を行いながら、地域の皆様の健康や生活習慣に役立つ情報を発信し、地域とのつながりを持てるような活動を継続してまいります。

令和4年
9月13日



テーマ **知っておきたい
お年寄りの悪性腫瘍**

講師：二村 聡（病理医）

参加者の声

「病理の先生の話聞いて、病気の知識だけでなく、病気になったときにどう生きていくのか考えさせられました」

テーマ **お薬について
正しく理解しよう**

講師：宮崎 元康（薬剤師）

参加者の声

「薬を飲んだ後の体への影響についてよく理解できました」



令和4年
10月29日



テーマ **膝の痛みについて**

講師：野村 智洋（整形外科医）

講座内容についてご好評いただき、講座後の質疑応答も大盛況でした。

令和4年
10月29日



テーマ **膝関節のリハビリテーションについて
～自宅でできる運動を～**

講師：浜岡 秀明（理学療法士）

講座の中で、日常にできる運動を参加者と一緒にに行い、楽しい交流の時間となりました。

診療日のご案内

	循環器内科	内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	呼吸器・乳腺外科	整形外科	形成外科(午後のみ)	脳神経外科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】

〈平日〉8:40～11:00

※1 小児科の専門外来は要予約 ※2 休診中

【休診日】

土曜日・日曜日・祝日

年末・年始(12月29日～1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】

〈平日・土曜日〉13:00～20:00 〈日曜日・祝日〉11:00～20:00

※面会の状況については、当院ホームページをご確認ください。

交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合

西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分
JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合

……………車で5分
九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分
県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。

※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。

地域医療支援病院・地域がん診療病院
福岡大学筑紫病院
Fukuoka University Chikushi Hospital

〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院一丁目1番1号
Tel. 092-921-1011(代) Fax. 092-928-3890
http://www.chikushi.fukuoka-u.ac.jp



ちくし



福岡大学筑紫病院の理念
あたたかい医療

2023.冬
vol.64

「基本理念」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

「基本方針」

1. 安全、安心な思いやりのある医療の実践
2. 大学病院として、高度先進医療の提供
3. 地域医療支援病院・地域がん診療病院として、情報発信とともに地域医療への貢献
4. 開かれた質の高い多職種協働によるチーム医療の実践
5. 患者の尊厳を尊重し、倫理観を備えた優しい心を持った医療人の育成

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
皆さまには健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

令和3年12月に福岡大学筑紫病院長を拝命し、一年が経過致しました。コロナ禍真只中の就任で、いささか、いや大いに不安でありましたが、職員一丸となつての協力・奮闘と、関係者皆様の多大なるご支援のお陰を持ちまして、病院運営を滞りなく行う事が出来ました。但し、時に診療制限をかけざるを得なかった事もあり、その際は大変ご迷惑をおかけ致しました。誌面をお借りして、お詫びと感謝を申し上げます。

さて、当院は「福岡大学」を冠した地域医療支援病院であります。それは即ち、大学のリソース（人的、物的資源）を使いながら、コモンディーズ（日常で遭遇する頻度の高い疾患）から先端医療までをカバーする、正に大学病院と市中病院の良いとこ取りの病院であると自負しております。筑紫地区は、福岡県の中でも特に高齢化率の高い地域です。前述のように当院は地域医療支援病院であり、地域医療貢献は大命題の一つと考えています。今年も当院の地域医療支援センターと、地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーション等と連携した、

一体的な地域医療の提供を推進して参ります。また、地域における心筋梗塞、脳卒中、心不全などに対して、急患対応の迅速化や、新たに脳神経内科の標榜など、診療体制の整備を進めており、地域医療支援病院の役割の一つである救急医療の充実を図って参りますので関係者の皆様、宜しくお願ひ申し上げます。

最後に、令和3年度から取り組んでおります、福岡大学の病院群に於ける「3 hospitals One team」を、引き続きその一翼として担って参りたいと思ひます。病院長として、当事者意識の啓蒙を病院全体として推し進め、各病院が協力しながら相互の発展を目指す事により、兎のごとく跳躍の一年とならん事を祈念致しまして、新年号の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



福岡大学筑紫病院 病院長
循環器内科教授
河村 彰

看護部紹介

看護部長 原田 英美



看護部理念 「人間性豊かな患者中心の看護を 実践する ー誠実・責任・創造ー」

看護はどんな時でも揺るぎなく、患者さんの「命・生活を支え、つなぐ」

令和4年4月より看護部長に就任いたしました原田英美と申します。私は、現福岡大学医学部看護学科の前身である福岡大学附属看護専門学校を卒業し、福岡大学病院に入職、35年間勤務ののち、福岡大学筑紫病院に着任いたしました。自然豊かで歴史ロマンを感じる筑紫野の環境、病院職員間の距離の近さとあたたかい風土が強み、魅力であると感じています。組織の強みを活かし、地域の基幹病院として救急医療、高度医療への貢献を目指していきたいと思っております。

看護の役割は、現在の複雑多様化した時代において、一人ひとりの価値観を尊重し、患者さんの未来を支えるチーム医療のキーパーソンです。2020年のCOVID-19感染拡大からコロナ禍は3年目を迎えます。家族面会や看取りのケアなど、療養環境は大きな変化を受けましたが、看護師たちは、どんな状況でも目の前の患者さんに真摯に向き合い、看護を再考しながら実践し続けています。当院の看護部理念である患者中心の看護の実践、そして、誠実に真摯にプロフェSSIONALとしての誇りと使命感を持って患者さんに向き合い続ける姿は看護師のありたい姿です。

また、看護部には、看護補助者・事務クラーク・保育士が所属しており、コロナ禍という有事において、みんなが「私ができることをやる!」という士気を持ち、患者対応をはじめ、看護部・病院運営への貢献に尽力しています。これからも、看護部一丸となり、今の時代に必要と言われるレジリエンス（「適応力」「復活力」「しなやかさ」）を人も組織も持ち、「あなたに出会えてよかった」と感動していただける看護を目指して参ります。



看護部スタッフ
（左から）福本洋美（経営・質担当師長）、山口美和（副看護部長）、原田英美（看護部長）、奥園夏美（副看護部長）、船津文世（教育担当主任看護師）、豊田亜理沙（事務）

パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）で目指す看護

当院では、PNS®（パートナーシップ・ナーシング・システム）看護方式をとっています。PNSでの二人三脚は、看護の実践をOJT（現場教育）の手法で学び合い、看護の質を向上させ、患者さんの安全・安心と満足につながっています。当院では、看護部理念を融合した、患者さんとともにある、PNSと命名しています。

看護現場でOJT（現場教育）とOff-JT（研修・学習）を循環させ、知識を変換するSECIモデルのサイクルを回します。ベッドサイドではもちろん、日々の終礼やカンファレンスを使い、語りを通して言葉や目に見えない貴重な暗黙知を形にし、看護の伝承・伝授を行っています。メンバーの存在が人材育成を促し、先輩・後輩がともに育ち、育て合うシステムです。



ワークライフバランスに応じた多様な働き方が当たり前となっている現在、PNSだからこそできることもあります。切れ目のない看護体制で、看護をつないでいます。病棟・病院全体で補完し合い、看護部理念に基づいた、患者さんの望みに寄り添う看護を実現します。

《PNS研修の受け入れについて》

当院は、PNS発祥の福井大学医学部附属病院看護部の第三者評価を受け、「九州一のPNSを実践できている病院」と承認されました。令和2年度より、「PNS研修」を開始しています。PNSの実際を看護現場で体験・学習し、自施設でのPNS導入・推進に役立てていただきたいと思っております。

研修受入窓口：教育担当副看護部長（奥園）



限界はない在宅支援 ～患者さん・ご家族の願いを実現する看護～

在宅支援室では、地域の方が住み慣れた環境でその方らしい生活ができるよう継続的な支援を行っています。必要時には患者宅へ退院後訪問を行い、訪問看護師の方との移行支援や外来看護へつなげてい

きます。関わった患者さんとのエピソードを毎月“Happy Life通信”として発信し、生活者としての患者さんを理解し自己の看護観を考える機会にしています。

《Happy Life通信》80代 女性 肺腫瘍

2019年咳嗽を主訴に受診し肺腫瘍を診断された。入退院を繰り返しながら「できる治療は受けたい」と強い意志を持ち病と闘っていた。秋ごろから胸に水が溜まり息苦しさも現れ、医師からは本人・家族へ治療の限界を告げられた。元々、一軒家に1人暮らし。近くに住む娘たちが時折訪ねてくるが、気ままに畑仕事をしながら愛猫と静かに暮らしていた。ひとり住まいの家に戻れるのか？と家族は不安を抱えながらも、自宅で過ごすことを強く望む母のために娘たちが交代で寝泊まりし療養を続けていた。早い段階から訪問看護や訪問診療を調整していたため、食事が入らない時には家で点滴をし元を取り戻すなど在宅スタッフに助けられながら日々を過ごしていた。徐々に通院が困難になると緩和施設への入院も考えていたものの、家族は「このまま家で見ていきたい」と意思決定されたため、訪問看護師より報告があった。3月に入り最後の時に近づいているのか、

時々意識も遠のく中、初めて授かった曾孫を抱きかかえとても喜んでた。娘や孫たちは、毎日誰かがそばに寄り添い、患者との時間を過ごしていた。最後の日、患者の傍らには4人の孫たちが取り囲み、「おばあちゃん!」と呼びかけながら昔話に笑いが絶えなかったそうだ。一番わいがられた初孫がずっと患者の手を握る中、そのまま静かに最後の時を迎えられた。穏やかな最期であり、ご家族も涙を見せるものの患者の願いであった我が家での看取りができたことに満足した表情であった。1年近く訪問看護を担当した看護師より、最後の状況や看取りまでの家族の頑張りについて写真と共に温かい手紙をいただいた。「ご家族皆様が、お母様のためにと自宅で見ていく事を決め、時には痛みを苦むお母様を見るのはつらかったとは思いますが、最後まで一生懸命に尽くされました。このご家族にお会いして、在宅での看取りの良さを改めて気づかされました。」最後に家族が患者の望む自宅での看取りを決心できたのも、訪問看護師や在宅医への信頼と安心感があってからこそだと考える。

認定看護師のアウトリーチ活動の推進 ～施設の人材は地域の人材～

当院は、地域医療支援病院として、地域全体の医療・看護の質向上のために、当院の人材は地域全体の人材であるという考えに基づき、認定看護師が直接ご依頼のあった施設へ出向いて、その施設にあった研修や相談に対応する活動（アウトリーチ）を推進しています。

今年度は、COVID-19の対応を感染管理認定看護師が施設へ伺い、施設の構造や使用されている物品を確認したうえで、ゾーニングやPPEの着脱の方法、感染対策に対する考え方を現場の方々と一緒にディスカッションをしながら施設にあった方法を検討しております。当院には、12領域16名の専門看護師、認定看護師、特定・認定看護師が在籍しています。ご相談内容に応じて各領域の看護師が対応させていただきます。遠慮なくお問い合わせください。



対応領域：手術看護、皮膚・排泄ケア、脳卒中リハビリ、集中ケア、救急看護、糖尿病看護、心不全看護、急性・重症患者看護、摂食・嚥下障害、がん化学療法、緩和ケア、感染管理

担当窓口：地域医療支援センター